

## 子育て支援についての取組の経緯

年度	県	国
平成15年 2003		<ul style="list-style-type: none"> <li>●次世代育成支援対策推進法の成立(7月)</li> <li>●少子化社会対策基本法(8月)</li> </ul>
平成16年 2004	<ul style="list-style-type: none"> <li>●秋田県次世代育成支援行動計画「あきたわか杉夢っ子プラン」の策定(3月) (平成17年度～21年度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●少子化社会対策大綱(6月)</li> <li>●子ども・子育て応援プラン(12月)</li> </ul>
平成18年 2006	<ul style="list-style-type: none"> <li>●秋田県子ども・子育て支援条例の制定(9月) ※子ども・子育て支援についての基本理念を定める ・秋田県子どもの権利擁護委員会の設置 ・子ども・子育て支援月間(8月)の制定</li> <li>●全国初の認定子ども園5園を認定(11月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新しい少子化対策(6月) ※児童手当制度見直し、生後4か月までの全戸訪問事業の実施、育児休業給付の引き上げ、等</li> </ul>
平成19年 2007		<ul style="list-style-type: none"> <li>●「子どもと家族を応援する日本」重点戦略(12月) ※就労と結婚・出産・子育ての二者択一構造の解決が人口減少化での日本の経済社会の持続的発展には必要であると指摘</li> <li>●新待機児童ゼロ作戦(2月) ※希望するすべての人が子どもを預けて働けるサービスの受け皿を確保し、待機児童をゼロにすることを旨とする</li> </ul>
平成21年 2009	<ul style="list-style-type: none"> <li>●少子化政策本部の設置(6月) ※知事を本部長とし、少子化の現状と課題をふまえ、雇用の場の確保や結婚機会の向上等を含め、総合的な政策を推進(後に少子化対策本部に名称変更)</li> <li>●ふるさとあきた元気創造プラン策定(3月) (平成22年度～25年度)</li> <li>●秋田県次世代育成支援後期行動計画の策定(3月) (平成22年度～26年度)</li> </ul>	
平成24年 2012		<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会保障と税の一体改革関連法成立(8月) (子ども・子育て支援関連3法含む)</li> </ul>
平成25年 2013	<ul style="list-style-type: none"> <li>●秋田県社会福祉審議会児童福祉専門分科会 子ども・子育て部会設置(地方版子ども・子育て会議)(10月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●待機児童解消加速化プラン(6月)</li> <li>●社会保障制度改革国民会議報告書(8月) 少子化対策が社会保障の重要な柱の一つとして位置づけられた。</li> </ul>
平成26年 2014	<ul style="list-style-type: none"> <li>●秋田県子ども・子育て支援事業支援計画策定(3月予定)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●消費税増税(5%→8%)(4月予定)</li> </ul>
平成27年 2015		<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども・子育て支援新制度施行(4月予定)</li> <li>●消費税増税(8%→10%)(10月予定)</li> </ul>